



Igroup

communication

Special **05**
2022年4月1日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

利用料金の
無料化のご案内

女子ホーム
テンポラリ 小倉北 開設
グループ初の男女ホーム
テンポラリくまもと 開設

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013

www.npo-aig.jp

利用料金無料化のご案内

当法人が運営を行う自立援助ホームについて、利用料金 30,000 円/月を 無料で利用できるように改定いたしましたことをお知らせいたします。2022年4月分の利用料金から適応いたします。

財源に対してご心配するご質問などもお受けしていますが、措置費の事務費単価が1人あたり25,000円程度増加したことが財源の根拠としてお知らせいたします。

NPO法人アイグループの法人の目的は、救済支援が必要な方に事業を行い、広く対象者の雇用の創造と確保、福祉の増進等に寄与すること。

数年前から利用料金の無料化する意見は法人内でも議論を重ね、全国自立援助ホーム協議会会員内でも利用料金は設定すべきという声もあり足並みを揃えていましたが、現代の子どもたちのニーズに合わせてテンポラリ(無料で利用できる自立援助ホーム)を開設。

利用料金を設定している理由は、自立を目的とした事業内容に対して、就労は必須であり、利用料金は就労支援の為に必要や退去時に蓄えていたお金を持たせる。等という声でした。

しかし、利用している子どもたちの声は、選択肢がこしかないから…など就労してお金を貯めて早く自立(一人暮らし)したいと本心から思っている子は少なく、一人暮らしも不安を感じています。

私たち NPO 法人アイグループ支援のあり方は、私たちが関わる方から虐待の世代間連鎖を断ち切る活動を行えたらという想いで取り組んでいます。

それぞれ“あたりまえの生活”に違いがあり、養育をやり直すことは容易ではありませんが、相談さえしてもらえれば、その時にできることを伝えて支援に関わることもできると考えています。

そのためは、寄り添いながらも頼られる存在を目指して支援を行うことが重要だと考えています。

それを行うには時間を要します。

現在20代までは支援対象としています。

傷ついた方が立ち直れるまでの時間は、制度が想定している以上に必要であり、ふとした時に不安に陥ることは誰にでもおこりうることです。

利用料金無料化については、自分の力だけではどうすることもできなかった子どもたちへ少しでも負担感がなく、きっと家庭にいたら同様の支援がうけられたであろうと想定するあたりまえの生活をすごしてもらいながら、自立を目指し相談できる関係を築いていくことが目的です。

テンポラリ 小倉北

令和4年4月1日に開設の女ホーム(北九州市小倉北区)です。

事業種別 児童自立生活援助事業になります。

定員は6名で、居室は相部屋になります。

リフォームしており、広いリビング、風呂、キッチン、庭があり、開放的なホームです。

近隣に商業施設などもあり、就業先も比較的に見つけやすい環境にあります。通常施設を利用するにあたり措置に切り替わっても利用料3万円も無料になります。夫婦制で取り組む施設なので、子どもたちに寄り添い、ホームが子どもたちの居場所になり、なんでも相談しやすい環境を作っていきたいと思います。また、心理士が常駐しているので、生活場面で困ったことなど子どもたちに合わせてサポートすることが出来ます。



八木田 峻介

テンポラリ小倉北

ホーム長

笑顔の絶えないアットホームな雰囲気 子供たちの成長を見届けたい。

私は、児童養護施設や不登校児の支援を行う中で、1人で不安を抱え悩んだり、自分のことを理解されず苦しむ子どもたちを見てきました。また、アイグループに入職し、子どもたちと関わる中で、頼るべき家庭を持たない子どもたちが、自立して行くには様々な問題があり、自立することは難しいと感じています。私は、社会に出てお金を稼ぐこと=自立とは思えず、子どもたちが出来るだけSOSを

出しやすい環境を作ることや子ども達と一緒に悩み・考え一緒に歩むことが大切だと考えています。子どもたちの心の依存先を見つけていくことが結果として、子どもたちの自立に繋がるのではないかと考えています。ここでの暮らしは人生のほんのわずかにすぎませんが、子どもたちの自信につながり、ホームを巣立った後も、関わり続けられる実家のようなホームを目指しています。



Profile

福岡県出身。
大学卒業後、児童養護施設や放課後等
デイサービスで勤務の後、現職に至る。

八木田 祐加子

テンポラリ小倉北

心理士

日々子どもたちに寄り添い、ホームが子どもたちの 居場所になれるようにしたい。

児童養護施設では、保育士として住み込み勤務で子どもたちと衣食住を共にし、自立に向けての支援を行っていた。その中で集団生活に馴染めない発達障害の子どもたちと出会う。その子供たちへ良い支援が行えるように子ども総合療育センターで心理療法士として勤務しながら勉強する。検査や個別療育などを通して、もっと身近で療育をしたいという思いから児童発達支援・

放課後等デイサービスで療育支援を行う。そこで不登校児と出会う。いろいろな事情から学校に行きたくてもいけない子どもたちがいることを知る。いろいろな形で学習できるように現在は、オンラインを使用した学習支援やメンタルサポートを行っている。また、これまでの経験を通して子どもの権利と向き合う。子どもの権利を守るために、子どもアドボカシーセンター北九州を立ち上げている。



Profile

熊本県出身。大学卒業後、児童養護施設や子ども総合療育センター、放課後等デイサービス、通信制のサポート校で勤務。日々子どもたちの心のケアをしていた。

テンポラリ
くまもと

1拠点3単位へ挑戦! 自立援助ホームの人員配置課題を解決する 7.5人配置を目指して新たなコンセプトの実現へ

令和4年3月1日にNPO法人アイグループ初の男女ホーム(北区立田)にオープンしました。事業種別 児童自立生活援助事業になります。

アパートを借り切り、男子棟、女子棟、事務所棟に分かれて運営しています。

定員は男子3名、女子3名、全部屋個室で各棟にお風呂、トイレ、キッチンの装備があります。通常施設を利用するにあたり措置に切り替わっても利用料3万円も無料になります。ほとんどの児童が不安な気持ちで預けられる事が多い為、全スタッフ笑顔のたえない施設を目指し、児童が安心して生活出来るように迎え入れようと努力しています。

施設のある場所はとても静かで夜もゆっくり寝れる場所で、近くには大きな公園もあり、春には桜が綺麗な場所で花見も出来るのどか場所なので、心を癒し、安心してもらえる施設です。



テンポラリ

谷川 真由美

テンポラリくまもと

支援員

制限がある中で楽しい事を一緒に見つけたり、一人ひとりの個性を生かした支援ができたと思っています。

私は障害者施設支援で勤務したことを活かし生活支援、自立への手助けになればと思い入職しました。数多くの不安や悩みを抱えている子どもたちが安心して日々過ごせるよう、一人ひとりの話に丁寧に耳を傾け、自分の存在が受けと止められている事を実感できるように配慮し、自分を大切に思うことのきっかけを作ってあげたいです。

また、制限がある中で楽しい事を一緒に見つけたり、一人ひとりの個性を生かした支援ができたと思っています。その為にもコミュニケーションを取り、子どもたちに向き合いながら信頼し合える関係を築いていくことが大切だと感じています。社会に出て困る事が無いよう子どもたちの幸せを全力でサポートしていきたいと思っています!

子どもたちが自分を大切に
思うことのきっかけを
作ってあげたいです。

Profile

熊本市出身
障害者就労支援施設、グループホームで
勤務した後、現職に至る。

テンポラリ

松下 恵

テンポラリくまもと

指導員

自らの人生を切り開いていけるように
伴走者になっていきたいと思っています。

私は10数年間看護、介護の仕事に携わってきました。

私生活では引きこもりと非行の道に走った子どもたちの子育てをしてきました。

子育ては何が正解なのかはわかりませんが、そんな中で子どもたちに携わる仕事してみたいと思う気持ちがあり今回入職しました。

子どもたちに携わる仕事は初めてで戸惑うこともありますが、先入観を持たず一人一人をみて接していきたいと思っています。

子どもたちのこれからの人生の中で「ここで過ごした事、学んだこと」が糧となり自らの人生を切り開いていけるように伴走者になっていきたいと思っています。

先入観を持たず
一人一人をみて接して
いきたいと思っています。

Profile

熊本県合志市在住
三人の子どもがいます。

ラブ・テンポラリ

元松 小子

自立援助ホームラブ

支援員

個々にあった対応・受容的傾聴。

精神科看護経験を活かし、未来多き子どもたちの支援に携わりたいと思い入職しました。青年期の特徴、個々の特性を理解し、信頼関係を築くことから始めたいと思います。日常生活から言語的コミュニケーション、非言語コミュニケーションを図り、身体的・精神的变化に素早く察知できるようにしています。

また、精神看護経験を活かし感情に巻き込まれず距離感をおき冷静に客観的に観察することも心がけています。子どもたちの、心の基地がこの施設・スタッフになれるように受容的に傾聴し、寄り添いながら支援していきたいと考えています。支援の中で、自分の身体の大切さ、人の温かさ、有難さ、愛情等少しでも感じられるように自らも努めていきたいと考えています。

身体的・精神的変化に
素早く察知できるように
しています。

Profile

熊本県出身
趣味は読書・旅行。

子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



えん

自立援助ホームえん

子どもたちの個性を
再確認することができるきっかけづくり。

えんには5人の利用者がそれぞれの目的をもって生活しています。高校在籍者2人、就労者3人です。今年、新たな企画として年間1人5万円を予算として、個別またはグループでのレクリエーション(行事・旅行)などを計画しています。早速、城島高原ホテルに宿泊をして翌日遊園地で楽しんだり、これまで行けなかったキャンプや、韓国へ旅行を企画する等アクティブに活動したいと考えている子どもいれば、おいしいものを食べに行きたいと

計画する子どもも個性を再確認することができるきっかけづくりにもなっています。利用料金がなくなったことで、急いで一人暮らしや寮生活を行うこともなく安心してすごせることが嬉しく感じている声も聞かれています。家族や大切な人との関係を再構築するために、家族の誕生日に手紙やプレゼントを贈ってみたい?と声をかけたり、施設からもご家族へお知らせを行う取り組みなども続けていこうと思います。



ラブ

自立援助ホームラブ

児童が一步步
自立した大人に近づいているのを感じます。

冬を通り過ぎ、暖かな春を迎えました。児童が「お散歩日和だね」と話に來たり、鼻歌まじりに食器を洗っています。スタッフも穏やかな気分になり、一日を児童とどのように過ごそうかと思いを巡らせます。2月の節分には恵方巻づくりをして楽しみ、バレンタインデーには女子ホームならではの賑やかさがありました。3月に入ってから、通信制高校を卒業し就職に向けて準備を始める児童、仕事を頑張りながら一人暮らしの計画を立てる児童など、それぞれが新たな課題に直面するようになりました。スタッフと児童とで将来の話をする機会が増えてきました。児童は不安な表情で、

「一人でやる自信が持てない」と訴えます。こんな時にスタッフが伝えられるメッセージは、「今は自信が持てなくても、できるだけやってみよう」ということです。いつでもアドバイスやフォローができるように準備しながら、少し離れたところで見守ることが私たちスタッフの役割だと考えています。このやりとりを何度も繰り返しながら、児童が一步步自立した大人に近づいているのを感じます。スタッフが「ここに来た時とくらべると成長したね」と褒めると、児童は「体は大きくなってないよ」と照れてしまうのですが。



テンポラリー

秋吉 紀子

テンポラリー

支援員

子どもたちと共に嬉しい事も辛い事も一緒に考えていけるような関係が築けたら良いなと思います。

様々な環境の中で、育ってきた子どもたちの共同生活は、毎日が楽しいことばかりではありませんが、日々の会話の中から、抱えている悩みやストレスを察することが出来、共に嬉しい事も辛い事も一緒に考えていけるような関係が築けたら良いなと思います。

就労支援施設や介護施設で人と関わる職場での勤務経験を活かし、子どもたちが立派に自立していけるよう見守り、2度目の子育ての想いで楽しく勤務させて頂いています。

この数ヶ月の間に、子どもたちからもらった手紙は、私の一生の宝物です。

2度目の子育ての
想いで楽しく勤務させて
頂いています。

Profile

福岡市博多区出身

庵

床津 友美

自立援助ホーム庵

支援員

急かさず、その子のタイミングで前向きに行動できるよう言葉かけができればと思っています。

入ってすぐは何をすればいいのか自分に何ができるのか全くわからなく悩みました。食事メニューを考えるのに精一杯。何をしたいか、なんと子供たちにアドバイスをすればいいか全くわかりませんでした。でも少しずつ子どもたちとも話ができるようになりました。少しずつではありますがその子がどんな悩みを持ちどうしていきたいと考えているのか話してくれるようになりました。その子にあった支援方法を先輩の石田さんと話し合い、子どもたちが成長していけ

るよう支援していければと思っています。子どもたちに急かさず、その子のタイミングで前向きに行動できるよう言葉かけができればと思っています。また子どもたちが疲れたとき、辛いとき、ちょっとした愚痴を聞いてもらいたいなと思ってもらえるような職員でありたいです。子どもたちが一緒にいると少しでも笑顔になれた。元気が出たと言ってもらえるような存在になれるよう頑張ります。

少しずつ子どもたちとも
話ができるようになり
ました。

Profile

福岡県久留米市出身。
二人の子育て奮闘中。子どもの夢、自分の
夢かなえるため頑張ります。

庵

自立援助ホーム庵

庵でも数名が
就職に向けて頑張っているところです。

桜の咲く季節が近づき、庵の周辺はとも賑やかになってきています。花が咲き、土の中からは緑の顔が出始めました。数か月前の寒い時期に畑を耕し、畝を子どもたちと一緒に作りました。そこに種を蒔き、水やりをして野菜を育てています。夏前には立派な野菜が収穫できそうです。収穫した野菜が食卓に上ることもあります。土から始まり自分たちの口に料理として運ばれるまでの過程を知るきっかけになればと思いつけています。今後も大切にしていきたい一つの取り組みです。この季節は過ごしやすくウキウキする気持ちと、新しい生活や進路に向けてドキドキ落ち着かない時期でもあります。庵でも数

名が就職に向けて頑張っているところです。就労先がスムーズに決まらず焦りや不安を感じることや、上手くいかずにめげる日もあるかと思います。また、就労が決まった後も仕事が上手くいかない事で悩むこともあるかと思います。落ち込むことがあっても早く庵に帰りたいと思ってもらえるような居場所であること。不安や悩みを共有し解決しながら前に進んでいく。働くことも楽しいなと感じていけるようにしっかりとサポートしていきたいです。庵の畑で種から立派に育った野菜のように、子どもたちが社会の一員として、強く、しっかりと生きていく力を持てるように関わっていきたくです。





inn

田栗 望瑠

自立援助ホームinn

心理士

児童にとって安心できる存在であるとともに、児童の特性や対応について、心理士としての見立てを職員間で共有し、ホーム全体でよりよい支援に繋げていきたいと思っています。

これまでの自分の経験から、カウンセリングだけでは生活に根差した支援が届きにくく、生活基盤からの支援をしたいと思い、入職しました。まだ児童との接触が少なく、少しずつバイトの行き帰り、休日の声掛けなどで関わりを増やしている状況ですが、焦らず関わっていききたいと思っています。私は、これからさらに難しくなっていく社会に出ていく子どもたちには、自分で考えて

生きていく力を身につけていってほしいと思っています。その為に、子どもたちには色々な世界を知り、経験や体験ができるような環境を用意していけたらと考えています。また、心理士として、子どもたちの特性や対応の仕方などを見立て、職員で話し合い、ホーム全体が良い関わりを作っていけるように、動いていきたいと思っています。

inn

自立援助ホームinn

自分自身に希望を持って 社会に羽ばたいていける支援を続けています。

2020年4月に開所し、早くも3年目の春を迎えようとしています。季節が流れると共に、児童も移り変わり、様々な背景を持った児童と関る事で職員にとっても日々学びの場となっています。これまで10名の児童が退居していききましたが、個性豊かな十人十色の児童で、“みんな違ってみんないい”と言われるように、1人1人それぞれの考えや好み、特徴があり、innを拠点に様々な人と出会い、経験や失敗もたくさんしてきました。11人目の児童は、絵やお菓子作りが得意な児童でシフォンケーキ作りにはまっています。朝、出勤すると良い香りに包まれ、

まるでケーキ屋さんに出勤したかのような幸せな空間になっています。入居児童によってinnの雰囲気も日々変化しております。10代は心も身体も子どもから大人に成長していく激動の時期でもあり、児童の心も不安定になりやすく、今日は明るくても明日は暗くなることもありえます。現状では、学業・就労など生活基盤を安定させる事が難しく、自立への道のりは厳しいものとなっていることが悩みとなっています。innで人の温かさを感じ、自分の居場所はここにあるという安心感を供給した上で、自分自身に希望を持って社会に羽ばたいていける支援を続けています。



色々な世界を知り、経験や体験ができるような環境を用意していけたらと考えています。

Profile

長崎県出身。大学院修了後、佐賀の精神科病院に勤務し、カウンセリングやデイケア業務などを経験。長崎に戻り、現在に至る。

LUCK

香月 知子

自立援助ホームLUCK

支援員

常に『笑』のある帰りたい場所、 人になれるように。

私はLUCKに入職する前、全くの異業種で働いていました。数々の職場で働いていく中で「もっと人と直接関わりたい」「もっと人の役に立てる仕事したい」という気持ちが大きくなり、こちらへ入職することに決めました。毎日が新鮮で勉強の日々ですが、子どもたちの笑顔を見ると幸せな気持ちになりますし、子どもたちに教わることもあります。

もし悩みがあるのなら、一緒に考え解決策へ導く手助けをする。時にはたわいのない話をし笑い合う。同じ目線になりながらも今後は立ち去っていく子どもたちの為に生活の支援をしていく。私に出来ることは微力なことかもしれませんが、常に『笑』をモットーに、子どもたちにとって居心地の良い場所、人であれたらと思います。



子どもたちの笑顔を見ると
幸せな気持ちになります。

Profile

福岡県出身。短大卒業後、数々の職に就く。父の闘病をきっかけに“人の為に何かしたい”と思い、異種からですが入職しました。

LUCK

自立援助ホームLUCK

「やりたい」を 大切にしていきたいです。

LUCKが開設してから、早いものでもうすぐ1年が経ちます。高校を卒業して大学生になる子どももいれば、新しく高校に通い始める子どももいます。出会った頃を思い出すと、とても成長したなあ感慨深いものがあります。新しい生活が始まるため、不安と期待が入り混じった気持ちだと思いますが、子どもの声をしっかり聞きながら見守ってきたいです。また、新型コロナウイルスの影響により、大変な時期もありましたので、子どもたち・スタッフ一同、健康にはより一層気をつけていきたいものです。

LUCKに来た子どもたちは、色々な「やりたい」を口にします。「学校に行きたい」「バイトをしたい」「習い事をしたい」「お出かけをしたい」など、おそらく家ではさせてもらえず我慢していたものもあると思います。子どもたちは、スタッフから「した方がいいよ」と言われたことについては、なかなか取り組めないことも多いですが、自分から「やりたい」と言ったことについては、やはりよく考え自分から行動します。そして、何より、自分がやりたい

ことをしている時は、表情がとても良く、充実しているように見えます。「やりたい」がそのまま将来の仕事につながることもあるため、「やりたい」を実現していくことが自立につながっていくと感じています。実現することが難しい時もありますが、子どもたちの「やりたい」をできるだけ尊重し、「やりたい」を実現するためのサポートをしていきたいです。

